

午前11時26分 再 開

○議長（門脇直樹君） 会議を再開いたします。

8番議員の一般質問を許します。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） 通告に従いまして一般質問をいたします。

はじめに、コロナ対策について伺います。

新たなウイルス、オミクロン株が日本を含め世界の国と地域で発見されて不安が増しております。まだこのウイルスの性格が詳しく分かっていない中で、比較的軽い症状だとも言われております。コロナがまん延してから約2年経過いたしました。日本全国に猛威を振るったコロナもどうにか落ち着いたと言われる中で、現状をどのように分析しているのか。また、今後、完全に収束することは考えにくく、どのように付き合っていくのかが求められると思います。この点どうとらえているのか尋ねるものであります。

次に、持続可能なまちづくりについてお尋ねいたします。

人口減少は地域社会の維持が困難になり、地域の活力が失われていく大きな課題であります。2040年問題は、地域の行く末を暗示させるものであります。八峰町を持続していくためにも、5年後、10年後の姿がどうあるべきと考えているのか尋ねるものであります。

次に、八峰町町づくりと経済の未来を創る協議会について。

率直に、この協議会に参加を決めた意図は何なのか伺います。

次、4つ目であります。作り育てる漁業についてであります。

漁業振興策としての作り育てる漁業については、以前からいろんな場でもって協議されてきました。日本海の荒海を前に、簡単な事業とはまいりません。漁港整備計画に組み込まれました静穏域という大きな建設事業が盛り込まれておりますが、この静穏域を使つての養殖ととらえていいのかどうか。だとしたら、何を対象としているのか。そしてまた、その可能性をどう見ているのか尋ねるものであります。

最後に、鹿の浦から見る洋上風力についてお尋ねいたします。

洋上風力については、心配事は今さら申し上げることでありませんが、今日は景観問題を取り上げたいと思います。

現在計画されている能代八峰沖洋上風力について、鹿の浦からの眺望はどこに配置されても景観を損なうことになりませんか、お尋ねいたします。

以上、よろしく答弁をお願いいたします。

○議長（門脇直樹君） ただいまの8番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。
森田町長。

○町長（森田新一郎君） 菊地議員のご質問にお答えいたします。

1つ目の「新型コロナ対策について」お答えします。

第207臨時国会において、岸田首相は、衆院本会議で新型コロナウイルス「オミクロン株」拡大に対応するため「最悪の事態を想定」し、危機管理への決意を表明されました。

また、ワクチンの3回目接種は、8カ月を待たずにできる限り前倒しすることや、ワクチン接種の電子証明書を今月20日から開始するなど、「ワクチン検査パッケージ」による感染防止対策と経済回復に向けた支援策や新型コロナによる危機を乗り越えた先にある新しい資本主義の実現についても述べられております。

そして、新型コロナ対応の今後の切り札となる治療薬の開発についても、年内の薬事承認を目指すことを示され、国産ワクチン、治療薬開発製造についても述べられており、その実現に期待しています。

そうした中、秋田県でも次の感染拡大を見据えた医療体制の確保について、専用病床の確保・拡大はもとより、県央・県南・県北それぞれに宿泊療養施設の設置に向け、準備が進められています。

また、国が無料で受けられる検査を抜本的に見直したことから、健康上の理由で接種を受けられない方や、感染拡大時には無症状でも無料で検査を受けられるよう検査パッケージ事業も拡大される見込みですので、町民の皆様にとりましても安全・安心に寄与するところが大きいと思います。

また、ワクチンの3回目接種については、現段階において、2回目接種から原則、概ね8カ月以上経過した人に接種することとされており、今月から郡市内の医療機関で開始されております。町営診療所においても、順次接種を開始できるよう準備を進めているところであります。

併せて、集団接種については、3月上旬からを目途に、能代市山本郡医師会をはじめとする関係機関等との調整を図りながら、具体的な計画が整い次第、速やかに町民の皆様へ情報を提供してまいります。

アフターコロナに向けた取り組みとしましては、「ワクチン・検査パッケージ」を活用した行動制限緩和の方針に基づき、引き続き、三密の回避、マスクの着用と小まめな手洗いなど感染予防対策の徹底のご協力を求めながら、経済社会活動の再開についても

取り組んでまいりたいと思っております。

さらに、今後想定される地方創生臨時交付金等を活用し、これまで実施してきた事業継続や雇用の維持、経済的な支援策などを含めて、国の様々なメニューを検証しながら必要な事業を検討してまいります。

2問目の「持続可能なまちづくりについて」お答えします。

最近では、2030年を達成年限とし、持続可能な社会の実現に向けて17の持続可能な開発目標と169のターゲットから構成されたSDGs、また、新過疎法においても、以前の「自立促進」から「持続的発展」に改正されており、5年、10年先を見据えた計画や目標を掲げることとなっています。

町でも各分野において様々な計画を作成していますが、最上位計画であり、町政運営の羅針盤である「八峰町総合振興計画」と、特に重点的に取り組む政策パッケージを取りまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、平成27年度に作成した時点で、既に「持続可能」という表現を取り入れ、5年スパンで更新し、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

町の現状と課題としては、「これまでの2倍のスピードで進んでいく人口減少」、「年間の出生者数が一桁になるかもしれない極端な少子化」、「誰も経験したことがない極端な高齢化」という3つの基本問題に直面しています。

少しでも人口減少のペースを緩やかにするためには、特に「若い大人を増やす」、「子育て世帯を応援する」、「農林漁業の担い手を確保・育成する」の3つの視点から産業振興や定住・移住対策、少子化対策に全庁を挙げて取り組むことが「持続可能なまちづくり」として大事なことと考えています。

「5年後、10年後の八峰町について」であります。私としては、産業が持続的に発展し、地域コミュニティが維持され、高齢になっても、障がいがあっても、認知症になっても、元気で住み慣れたところで安心して誇りを持って暮らせる八峰町でありたいと考えております。

次に、「八峰町町づくりと経済の未来を創る協議会」についてお答えします。

この協議会は、八峰白神商工会会長が発起人となり、人口減少や少子高齢化による地域内産業労働力低下への対応として、地域事業者を活性化し、雇用の場を増やすとともに、定住人口及び交流人口を増加させ、地域経済の活性化に繋げる好循環を創出することを目的に設立されたものです。

会員には、設立の趣旨に賛同された町内の様々な団体の方々がご参加され、正に政官財の各機関が一堂に会した協議会となっているほか、商工業や農業、漁業等の若い世代の方々も参加しています。

ご質問の参加を決めた意図についてであります。例えば八峰町総合振興計画について、基本構想、基本計画については、策定委員の皆様と審議していただいているのに、実施計画については、八峰町として毎年度予算案という形で提案している方式に疑問を抱いておりました。人口減少、極端な少子化、極端な高齢化という3つの厳しい基本問題に直面している時に、町役場だけで実施計画を策定していいだろうかという疑問であります。

そのため、町長選挙に立候補する際の政策パンフレットの中に、総合振興計画や総合戦略の実現を目指すとともに、新たな視点で取り組む「10」の取り組みを提案し、その1番目として、農林漁業を魅力ある産業に成長させるため、その最初に「農林漁業団体や商工団体との連携を強化し「オール八峰」でチャレンジします」と掲げたものであります。

このような考え方を持っていた私でありますので、町役場とは別に、商工会、JA、漁協、観光協会などが連携、協力し、地域の総合力で立ち向かっていく良い機会ではないかと考え、参画することといたしました。

次に、「作り育てる漁業」についてお答えします。

八峰町は、日本海に面した県北最大の漁業基地として八森漁港、岩館漁港を有し、古くから県の魚「ハタハタ」に代表される漁業の町として栄えてまいりましたが、近年は、水産資源の減少、漁業従事者の高齢化や後継者問題、原油価格の高騰や魚価の低迷など漁業や漁村を取り巻く環境は大変厳しいものとなっており、今後、八峰町の漁業や漁村がどうなるのかという大きな危機感を抱いています。

こうした状況の中で安心して持続可能な漁業を実現するには、漁業者が安全で安定した漁業ができるよう、高齢になっても取り組める「作り育てる漁業」のこれまで以上の推進、魚価の安定化を図るための品質の向上や品質の統一化、浜の磯焼けの状況と原因の調査を踏まえた海藻を増やす取り組みの推進、漁港・漁場の整備促進、漁業者だけに任せないオール八峰での6次産業化の推進などが重要であると考えます。

ご質問の「作り育てる漁業」の具体的な品目としては、現在のところ、サーモン・ギバサ・ウニ・アワビ・岩ガキ・ワカメ等が考えられます。

岩館地区の若い漁業者が中心となり実施するサーモン養殖では、今年度、秋田県から岩館漁港内にいけすを設置していただき、12月27日には稚魚500尾を投入する予定です。その後は、給餌をしながらデータ採取・サンプリングを実施し、来年6月頃の収穫・出荷を目指すこととしております。

本事業は、既に養殖が成功している深浦町の企業から技術的なアドバイスを受けながら進めることにしておりますので、大きな期待を抱いております。

また、ギバサの増養殖については、今年度より増養殖実証実験事業をスタートしました。岩館海浜プール脇の人工リーフ及び滝の間海岸の岩礁において、ギバサ増殖の妨げになっていると考えられる小型海藻の刈り取りや泥の除去作業を実施し、ギバサ胞子の定着状況を継続的に観察しております。

これまでの報告では、ギバサ幼体が高密度で生育していたことが確認されておりますので、増養殖が成功し、昔の豊かな海を復元できる可能性は非常に高いものと感じております。

また、来年度よりウニの養殖を実施したいという要望も出されておりますので、秋田県水産振興センターの協力を得ながら、町としても支援してまいりたいと考えております。

5問目の「鹿の浦から見る洋上風力について」お答えします。

9月13日に八峰町及び能代市沖が「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」に基づく促進区域に指定されました。促進区域の範囲は、八森岩館県立自然公園から5kmほどの距離が確保されており、八峰町内の主要な眺望点である鹿の浦からは、南西側・能代市側を眺望した際に風車が見えることとなります。

「鹿の浦からの景観に与える影響」についてであります。この件については、私が町長に就任して初めての平成30年6月議会においても一般質問があり、再質問のやりとりの中で、菊地議員の「展望台から南西方向を見た時に素晴らしい景色と思うのか」という質問に対し、私は「鹿の浦から見る北西方向の風景よりも、同じような風光だが、ビューシーラインから見るその風景が大好き」、「そこの風景は大変素晴らしい風景で、もしそこに別のものがあれば、美しい風景を損なう」という、菊地議員の質問の趣旨とかみ合わない答弁をいたしました。

その後、平成31年3月議会において、菊地議員から、平成30年6月のかみ合わなかった答弁に対するご指摘があり、私が「菊地議員が言う南西側という部分を含めて答弁し

たのであれば申し訳ない」とお答えしております。

鹿の浦からの景観については、私が町長選挙に立候補する際の政策パンフレットの写真にも使わせていただきましたように、鹿の浦から北西方向については、もしそこに風車等があれば、八森岩館県立自然公園の美しい景観を損なうものと思っております。

このたびの八峰町及び能代市沖における協議会で取りまとめられた、洋上風車を建設しても良い「促進区域」については、鹿の浦から5kmほど離れたところの南側に建設されますので、洋上風車は見えることとなりますが、私の主観では、特に違和感を感じるものではないと思っております。

○議長（門脇直樹君） 8番議員、再質問はありますか。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） 今回の質問でいろいろ重複した質問になっておりますので、回答いただいたことも多々あるわけでありませうけれども、まず最初のコロナ対策については、行政報告等々で町長何回となく述べております。今ひとつ傍聴者もいる中で知りたいのは、18歳以下のそれこそ10万円の給付、その部分が町はどうするのかなどということはやはり知りたい、そういう思いでいると思っておりますので、その部分をですね再度示していただきたい。お願いします。

○議長（門脇直樹君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） このたびの12月補正予算の中で、高校生になる前、中学生までの部分については議決させていただきましたので、年内にはその家庭の方々に振込したいという、そういう段取りであります。そして昨日ですね、昨日の16時19分で県からメールが入りまして、まだ国の方では予算が、補正予算が審議中であるんだけど、その補正予算が通るという前提の中で事業を進めていってくださいというふうな通知が入りました。やり方としては、私どもの部分については、高校生の部分が全額10万円一括給付したいと思っております、現金で。そこの部分については150人おりますから1,500万。それと高校生以下の16歳までの部分については、残りの半分の部分をやりますので、総額3,700万ぐらいになるんですけど、その部分については、新しくまた10万円をやるために受け取るかどうかの本人確認に2週間必要になるので、どうしても受け取る部分については1月末になります。それで、先ほどちょっと議長にも相談させていただいたんですけど、町としては1月早々に、まあ7日の日を予定してまうけれども臨時議会を開いていただいて、一括10万円を現金で支給したいと。1月末までには何とか届けたいというふうなそういう考え方で進めていきたいと思っております。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問はありませんか。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） 分かりました。また大変結構なことだと、こう今思っております。

一番最初の質問を終わります。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） 持続可能なまちづくりにつきまして、これも再三と町長も答弁されております。正に今までこの4年間町政を担当されてきてですね、やはり思う存分にできたかどうかというのは、これはまあいろいろ評価されるところでありましようけれども、今、能代のね、まあ企業誘致等々、企業の進出、非常に熱いんですよ。そういう意味からすれば、昨日笠原議員が質問されました、取り上げました、この長野の下條村のその集団住宅の建設の件を再質問で述べられました。私もその研修に同行した一人だけですから、それによってその下條村は出生率が2位前後まで維持しておったということでありました。まあ現状今6、7年経ちましたからどうか分かりませんが、そういう認識があります。そういう意味合いから、能代がまあいろいろ活性化して、何ぼでも大きくなってほしいと、そういう意味で住むところは八峰町だと、こういう位置づけを何としてもつくりたいな、こう思っております。そのためには、やはりその家賃の問題、所得云々に係るそういうやつの問題が大きなネックになってずっときました。それは国の予算で造った町営住宅でありますから、これはまあ法のもと仕方ないわけでありましてけれども、町の活性化住宅、最初の住宅を10棟、それを改修しましたよね。制度変わりました。あれではですね魅力がどうかというのは、今ひとつ思いますよ、もちろんその建物含めて。若者がそこに入れるかどうかというのは非常に疑問に思う。そういう意味合いで、そういう今すぐこの集合住宅を建てるという思いで言ったのではないんですが、そういう認識やはり必要なのかな、こう思っております。

そしてですね、今までこの町の姿勢といいますか、いろんな細かい事業、まあ先ほど須藤議員は細かい事業は云々って申されましたけれども、でもその生活環境整備やら何やら福祉やら、いろんな分野においてはきめ細かい行政を敷いていただいて、八峰町が安心して住める町、幸福度の感ずる町というものをですね全面に出していけるようなまちづくり、そういうものが私は必要だな、大事だなと、こう思うんです。どうですか町長、今一度。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 下條村の話についてですけど、私もまあ今、オミクロン株がど

ういう形で感染拡大していくのかって不安もありますけれども、是非皆さんが見ていった部分を見せていただきたいし、村長さんとも意見交換させていただきたいと思っています。

一つは、要するに私は、外から来た人も中の人もそうなんですが、自治会の中心部に住むべきだと。自治会の集落から外れたところに造るのは、私としては好ましくないと思っています。それは、せっかく来た若者とか子どもたちが、自治会の高齢化が進んでいる自治会の中で生き生きと活躍してこそ、その自治会の元気に繋がっていくからというふうな思いからであります。まあそういう部分も確認しながら、私、集合住宅についてはあまり乗り気ではないんですけど、これは入る人はいますけど出ていく人もすぐいますので、それよりは一戸建ての部分であれば終の住みかとして大枚のお金払うわけですから、まあそういう部分を考えていますが、まあいずれ下條村の部分については私も是非見せていただきたいと。そういう、飯田市には行ったことがあります。非常に過疎のまちですけど、その部分でどうやってその10棟もの集合住宅に入居者が満杯になるのか、どこさ通っていつてるのか、まあ非常に興味がありますので、是非それは行かせていただきたいと思います。

それから、地域活性化住宅の点もありました。これは移住・定住対策の部分の中、定住・移住対策の部分で、今の公営住宅の部分については法律の縛りがあって、一定の収入、例えば子どもと大人が、親方が一緒に同居して、子どもが就職して収入上がると出ていかなきゃ駄目なんですよ。その部分を何とかしたい。公営住宅法に縛られない町の住宅として少し補修しながら活用して、優先的に若い世代、子育て世帯をそこに住ませたいというふうなそういう思いで増やしていきたいんです。今、高齢者の方々住んでいけば、その人方は出ていってもらってやるっていうわけじゃないんです。空いた部分をそういう部分で、年数経って家庭内の所得向上したとしても出ていかななくてもいいような、そういう家を造りたいという思いで進めている政策であります

それから、安心するためにも、暮らしやすいような地域づくり、こまめな事業も大切だ。これは私、先ほどの須藤議員とは違って、菊地議員と全く同感であります。そういうきめ細やかな、住んでいる方々が喜んでくれるような、そういう政策こそがやっぱり町としての、国、県とはまた違う町の小回りの効く行政の良さだと思っていますので、そういう部分は十二分に、まあもちろん財政負担の懸念もありますけれども、そういう意味で私とすれば住民要望の部分については大切にしながら、来年度に回すとかそうい

う今やられるものは今、して大きいものは来年度予算をつけてっていうふうな、そういう方針で臨んでいるところであります。

それから、能代市の部分の企業誘致。これは私も、八峰町の中に中国木材のようなあいうすごい企業を誘致するっていうのはそれは困難でありますので、私の頭の中では、能代市が何とか雇用の場として抱えるような、まず能代、県の能代工業団地、そこ満杯になって、さらに能代港、この部分もいろんな部分で活用されて能代市自体が元気になってくれば、我々サイド、菊地議員おっしゃったようにベッドタウンとして非常に住みやすい形になりますので、そういう部分で能代市がこう行うような事業に対しては一緒に要望活動をしているところであります。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） 私の知人です、なかなか嫁さんをもらえなかった方がおったわけですが、いつでしたかね会った時に、やあ菊地さん、俺の息子、嫁もらったじゃと。おお、いがったこと。へば一緒にいらったが、何も何も、一緒にだっけ何もいねった。能代さアパート借りて住んでるって。うん、まあそれでも良かったんですよね。一緒になった二人が良ければいいですよ。そういう現状なんです。まあ役場職員の話すればですね、ちょっと角が立つんでやめますけども、本当にそういう状況があるっていうことをまずひとつ伝えておいて、この質問は終わります。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） 4つ目の質問であります。あ、失礼。町づくりと経済の未来を創協議会についてであります。

この協議会にはですね、副町長、教育長、それに7名の管理職、皆さん参加しております。それに議員も参加しております。そしてそれぞれの部分に分かれて部会にも参加しております。私は、先ほど須藤議員も述べられましたが、非常に過去に例もない違和感のあるそういう会議だと、こう思いました。最初、設立総会に私出てきました。脱会したものではありません。しかしながら、今まで私も二十数年間議員をさせていただいて、このような対応は初めてであります。非常に私、後でショック受けました。議員もそこに入って一緒に協議して、町長は決まったことを具体化するのが議会だと先ほど言われるでしょうけども、チェック機能が働かなくなりますよ、こういう方式では。私はそう思います。どうですか、ひとつ。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 総合振興計画上の部分の実施計画が役場で作っているっていうお話をしました。その予算案を議会が審査して、それで承認されれば実行に移すというのが今の仕組みであります。で、今菊地議員は、そこで審議され決定されれば、議会の方であと審議する必要がないというふうなお話なんです。が、予算にするためには何をどうやってどのくらいのお金をかけてどういう手順で進めていくかっていう部分を説明しなきゃいけない。今その部分についてのまちづくり、まあ未来づくり協議会の部分については今までやったことないから、その部分については違和感あるかもしれませんが、いろんな考え方がある。例えば観光協会にもある。商工会にもある。で、その部分で町の方にそのお話をしても、昨日の山本議員のお話のように町の方としてそれを入り口でシャットアウトしてしまえば、そのアイデアが生きない。だからそういう部分のアイデア出しの部分でプロジェクト計画という形の部分をやって、その予算化をするためのノウハウあるのは町の職員なので、その部分で予算化して、予算化できるものは予算化して提案して議会で審議していただく。だから方向性は同じだとしても、中身の部分が審議できないっていうことはないと思いますので、そういう部分はそういう形でご理解いただければというふうに思います。あくまでも予算化する部分については町の方で皆さんに説明できるような部分を作って、その上で審議していただくっていうふうな形は今までと全く同じであります。が、その町が町の部分だけでやる部分じゃなくて、民間の力も借りながら、そして町の予算、町の厳しい状況の持続可能な八峰町にするために、その部分で力を借りながらやっていきたいと、そういう趣旨でありますので、まあ議会が審議できないっていうことではないと思います。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） そこに議員が入るということがどうなのかなと思うんです。まあその町長が、まずですね町長が公約の中で「オール八峰」という言葉をよく使っていましたね。先ほども述べられましたけれども。そういうことからすればですね、正にこの名簿、かなり理想に近い名簿だと私思いますよ。そういうことからすれば、この立ち上げって町長が持ちかけた話ではないんですか。違いますか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） ここまで来るまでにはいろんな経緯があります。で、オール八峰の話は当然私の公約の部分の一丁目一番地に掲げてますから、最初は私と副町長、それから議長と、それからJAの組合長、漁協の組合長、観光協会長、そして事務局が秋

田銀行と商工会というふうなそういう形の地域活性化懇談会でやりました。ここの部分でもいろんな取り組みをして、そしてその後に菊地議員も役員として一度入ってますけど、商工会と私との意見交換会。そしてJAとも私とも意見交換会。いろんな取り組みをしてきて、その部分から、上で、さらにまあ地元の商工会の会長さんが県の連合会の会長さんになったこともあって、この商工業がかなり厳しい状況に置かれてる部分を打開するためにどうするかという形の中で生まれたあれでありますので、まあ自発的、私からやってくれってお願いしたものではないんですけど、私がお話を聞いた時は、待ってましたっていう感覚でいました。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） 本心を伺いました。今、私このことは商工会長に直接聞けばいいことなんだろうが、商工会の会長がですね今回のこの協議会の立ち上げ、一番早く八峰で立ち上げたということなんですけど、これを全県に広げて全県の商工会で立ち上げたい、そういうふうに頑張りたいと、こう述べておりました。町長、これまあ町長聞くのかどうか分かりません。感想だけです。思いますか、できると思いますか。

というのは、私が今話した議員の感覚ですよ。各町村の、市町村の商工会を抱えている。なかなかこれ無理な話ですよ。そこにはやはり我が商工会の会長が別な存在なんです。私は思います。あそこは自分で何とか判断していただきたい。どうですか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 今、八峰町から始まった未来づくり協議会ですので、昨日も山本議員から、そこさ町長が顧問としているのはおかしいという話されましたので、その中に今菊地議員が議員が入るのもおかしいという話されましたので、その部分は直していけばいいかと思います。

私は、今までのやり方を踏襲していけば、例えばひとつ少子化の話、前にもしましたけれども、昭和30年の320人が30年後に120人になって、それがその30年後に20人になって、その30年後には4人になるかもしれないというふうなそういう話をさせていただきました。今までやったことがないから駄目なんじゃなくて、今までやったことがないからやってみるっていう部分が、これからの行政としては必要なことだと思います。役場だけで考えて結果を出せないのであれば、ここで住んでて孫もいる、子どももいる、そういう人方も入ってもらいながら未来をどうしていくかっていう部分を話し合う場合は、誰も駄目だという話ではないと思います。だから今議員が入ってるから駄目とか、私も

出席せば駄目って、それは外せば、外れればいい話であって、地域の総合力で町を何とかしていかなければいけない。この3つの基本問題っていうのはそのくらい大きな影響を及ぼす基本問題という認識してるから、あの八峰町から始まったわけでありまして、そのこの部分の認識度合いが、25市町村長おりますけれども、どういう形でやるのか、これはまだ分かりませんが、まあ商工会長がどういう、県のね商工会連合会の会長がどういう形で説得するか分かりませんが、まあお手並みは見ていきたいなというふうに思っています。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問はありませんか。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） 私は議員という言葉使いましたけども、議員、私一人ではございませんので、その辺はまずまあわきまえておいてほしいなと、こう思います。

次、4番にまいります。いいでしょうか。

○議長（門脇直樹君） 続けてどうぞ。

○8番（菊地 薫君） 作り育てる漁業であります。

この作り育てる漁業、まあいろんなその養殖漁種についても先ほど町長が述べましたけども、これは静穏域という場所でいいんですね。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 漁港を活用して作り育てる漁業をやるっていうふうな形です。

今まで外海とかそういう部分あると、3年か5年に来る一遍来る大時化で、どんなにアンカーを深くやっても流されてしまう、いろんな難しい点がありますので、まあ水産庁の方でも今、漁港を活用した作り育てる漁業というふうな形でやっています。今現在は、今、今の漁港の中にある静穏域を活用して、そこでサーモンの養殖の可能性があるかどうかを実証試験をやるっていうような考え方でございます。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） いやあ、確かに漁港ですよ、漁港を使うんです。予定している漁港、岩館漁協に第2漁港もあります。そういう意味からして漁港なんでしょうけれども、認識としては向こうに沖防波堤を造っているあの内海という考え方で違うんですか。もちろん本港、本港って岩館の漁港の第1漁港の方の、もう使えないこともないでしょう。あそこ見れば漁船がそれほどいるわけでもない。活用方法、私は具体的に専門的なこと分かりませんが、その部分はそう思ってるんですが、第2漁港をそういう方向で、あの部分を内海をしたいという考え方で私再質問してもいいでしょうか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 今のサーモン養殖をする部分、私伺っているのは、分港の方ではなくて本港の方の業社の作業用岸壁、その内側の方にいけすを設置するっていうお話を伺っていますので、まあその部分がまだやってもいけませんので、その部分については12月27日から実験が始まりますので、成功してもらった暁の部分については、漁港整備そのものは町がとやかく言う話でなくて、県の事業でありますから、県がどういうふうな判断されるのか、町とすれば漁業のためになる、漁村のためになる事業であればお願いするし、今までもお願いしてきました。今現在のサーモンの5 m四方のいけす部分については、分港の方ではなくて、こちら側、まあいわゆる本港の方の静穏域を利用してっていう話は伺っています。

○議長（門脇直樹君） 8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） まあ今、本港、第1漁港の方、まあ町長述べられましたけれども、第2漁港のね、その静穏域を使っただけのその建設云々について、あれは県から来て、漁協あるいは議会にも2名の議員が参加して協議した場があるんですよ。ていうのは、私は当然そこだと思ってあったんですよ。違うんでしょうか。まあいいです。

私はね第2漁港の整備について、岩館の、あそこ漁港整備計画に載っていますよ。あの沖合の防波堤、12月1日のあの大時化、全部かぶってますよ。北から南へ。内海なんて、あの状態では考えられない。

そもそもその計画というのは、あそこに小型船、全部船外機付きの小型船ですよ。出漁、ちょっと荒れれば出れない。そういうことの要望をちゃんと能書きしてありますよ。説明書き。だけれども、そのために大きなその事業としてあそこに計画された。出漁機会が減って、その静穏域を確保するのであれば、沖合の前に今北側にある沖合に延びる堤防、私はこれ個人的な意見ですよ、延ばしていけばまだまだ違うんですよ。それが違うんですよ。沖合に防波堤できてる。あの防波堤、まだまだ延長すると私聞いてます。それが30億なるのか60億なるのか。いろんな話が、聞いてきた話で申し訳ないんですが、その際に予算が伴う。漁港整備計画、町に1割来ますよ。6億、7億という金が町負担になる。しかし分かりやすく言えば、1億の事業とすれば町の負担が1,000万。それは過疎債を期待するわけですよ。700万補助されて300万で1億の工事ができる。これはすごいことだなと。これは同じことを前町長に私伺いました。そうしたら、港湾を抱えている町村は、もう全国でたくさんいる。その方々が揃って国に陳情に行くんだと。その中

でいろんな先生方を使いながら町長お願いして歩く。そこでついた予算をね使わないわけはないだろう。これほどいい予算はない、こう言いました。町長どう思いますか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 根本の部分で、まあ一度菊地議員からもお聞きしたいんですけど、漁業の部分についても数字で私何度もお話してます。このままでいけばどうなるかってのは、まあ菊地議員も十分分かってます。そのためにどうするか。ハタハタだけには頼れない。ハタハタだけに頼ると、今現在、八峰町の八森すごくいいですよ、沖合も沿岸も。だけれども本場の男鹿半島周辺、南の方どうなってますかって。そういう部分の中で必要な部分、それとワーキンググループの話をされました。その話、いきなりサーモン来た時、私、誰やるんですかって。そのノウハウ得るんですかって質問しました。その部分では懐疑的でした。だけれども隣町ですよ年間1,000 t もの部分があって、北部漁協支所管内よりの水揚げ額よりも多い、ここ数年ですよ、そこまで育て上げる成功例あるんじゃないですか。その企業が全面的に技術的なアドバイスをしていただくことによって町でも可能という判断した。

あと漁港の部分については、3%でそういう部分、3%で100%の事業できる。これは大きな魅力だと思います。県単、要するに財政再建する時に一番問題あるのは、町単部分の事業をどうやって抑えて補助事業に切り替えていくかというのが大きな課題になりますから、そういう意味では漁港整備の部分は非常に町とすれば財政負担の少ない事業だというふうに思います。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問はありませんか。8番菊地 薫君。

○8番（菊地 薫君） 作り育てる漁業については、まあサーモンが今いろいろ先行して計画されておる、今、12月、養殖に魚を入れるという状況になってる。まだそれが、確かに確固たる指導はあるにしても、この生産された魚、水揚げされた魚を販路までちゃんと決まるというか、予定公表してるんですよ。まだ海の物とも山の物ともつかない。言葉悪いけども。私はね非常にこれが変な力があるなと思ってるんです。私どもそういう予定できますか、商売人として。私、非常に思いましたよ。まあそれだけひとつ申し上げて4番終わります。

○議長（門脇直樹君） 続けてどうぞ。

○8番（菊地 薫君） 洋上風力です。これは先ほど町長がいろいろ今までの経緯述べられました。自然を守る、環境をどう保全していくかというそういうまあ一点に尽きるの

がこの景観だと思います。それ以上に健康、あるいは漁業に与える影響、大きいものがあるでしょう。風車を見て飯が食えるかといえ、それはそれまでです。しかし、この景観というのはどこの町村でももちろん発生する大きな問題ですよ。それが未だにあそこに、町長が5キロ離れたと言うけれども、そこに、あるいはモンタージュなり、鳥瞰図じゃないんでしょうけども、そういう想像できるようなそういう図面が何もないんですよ。どこの業者もそれを作っていない。どうしてだと思いませんか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 私、町長になって、まあ任期中16回の議会がありまして、今日は15回目です。15回全ての議会において、その風力発電の問題が取り上げられた一般質問で、私自身が持論ができてしまいました。景観に対しては。私自身が政策パンフットに強い風を生かす形の部分は、県立自然公園部分は手つけないよと、ここは手つければ駄目だよ、そういう部分の思いで、でも峰浜地域であれば、私の感覚とすれば、ここの部分は漁業者がこのエリアだったらいいよ、国の法律できた時に、私はその部分に関しては、景観の部分は見るところ、見る場所、見る人によって違うっていうふうな形の持論ができましたので、まあそういう部分で私の持論とすれば、鹿の浦から能代方面を見た部分に関して、洋上風車がどのくらいの大きさで見れるのか、まあかなり小さく見えると思うんですけど、沼田にある風車見れば分かるんですけど、まあどういう形になるのかって私については、そこの部分の風景に関しては特に違和感がないというふうなお答えをいたしました。

○議長（門脇直樹君） 8番菊地 薫君。

○8番(菊地 薫君) 先立ってですね県の事業で半農半Xっていう事業ありましたよね。今もやってるそうです。その最初に来た方がですね、私、名前分かりませんが、新聞報道されてました。八峰町に来て、いやあすばらしいとこだな。第一声発したのが鹿の浦からの展望ですよ。それほどインパクトがあるんです、あそこは。どこでも大変な景観でしょうけども、とりあえずね八峰町の玄関口としてはそれほど魅力ある景観なんですよ。あれが今、目名潟、水沢、沼田、落合と、もう陸上建ってます、風車が。あれ見た時に、毎日見てれば立ってるもんだから慣れてきますよ、これ本当。ところがですね、海、洋上なればですよ、意外と湾なってるんですよ、日本海側。この沖合が。そこに5キロといえども風車が建つということは、非常に大きなインパクトがあると思うんです、私は。全然違った形。私が今までですね、この環境を守るためにね、その二ツ森の

話をしたりね、立岩、あつこの砂を堆積した部分を話したり、いろいろしてきました。でも、これがこそね守る守らないかというその大きな分岐点、こうなると思いますよ。自然の守る、景観を守る。じゃ、どこならいいのかという話になりますけれども、私は、能代八峰沖ですから能代があのからいもう先行してやってる。そういう意味では、できる得る限り能代近辺でいいと思う。変な話ですけども。そういう方向性、私は考えを持っていますが、最後に町長どうでしょうか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 前にも答弁してるかもしれませんが、環境保護とその地域の活性化に向けた開発、これはもう何十年も前から言われ続けてきた問題であります。そのバランスをどう図っていくのかっていうふうなそういう問題だというふうに私は思っています。その景観の部分については、議員おっしゃるとおり、議員から見れば鹿の浦から見る風景がけがされて、まあ損なわれるという形で思っておられるかもしれませんが、私は岩館方面見た時は非常にあそこに風車あれば、これはもうとてもでないが認められませんが、能代火力発電所の方にあつたとしても、私とすればその部分についてはバランスを図りながら開発の地域の部分も、地域活性化の部分も一緒にやっていかなきゃいけない問題だというふうに認識してます。

○議長（門脇直樹君） これで8番議員の一般質問を終了します。

お諮りします。午後の再開を1時20分に変更したいと思います。よろしいですか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（門脇直樹君） では、午後の再開は1時20分からといたします。

休憩いたします。

午後 0時22分 休 憩